

## 外科学講座統括責任者巻頭言 大木隆生

### 外科学講座再生ビジョン第二段階へ

2006年に米国より帰国し丸3年、統括責任者に就任してから2年が経過しました。統括責任者としては「外科医局員の総幸福度アップ」という最終目標達成のために、「トキメキと安らぎのある村社会」をスローガンとし外科学講座の再生を図ってきました。新たに打ち出した数々の施策（詳細は医局年報2007、2008に記載）が目に見える形で結果を出しつつあります。最も力を入れておりました入局者数は21名でしたが、数年前には5・6名しかいなかったことを考えますと隔世の感があります。これはひとえに医局員一人一人が学生や研修医などに外科医療のトキメキをきちんと伝えてくれ、また各人が生き生きと仕事をしていることの賜物です。ちなみに、増えたレジデントが十分なトレーニングを受けられる事を担保するために新たに5つの病院を修練施設としましたが、従来はレジデント本人が交渉していた労働条件を統括責任者が代理人を務めることで最低1,000万円の年収を確保しました。また、本院外科の診療実績は2006年には年間約30億円でしたが、2008年度は約60億円と倍増しました。第109回日本外科学会総会における演題採択数は61題を数え、昨年に続き演題数日本一でした。一時凍結されていた昇格人事も新たな基準を設け、有資格者をどんどん昇格させることができました。2008年度だけで新たに講師5名、派遣講師2名、准教授4名、派遣准教授2名、教授2名が誕生しましたが、これは昇格した各人の功労に報いるばかりでなく、外科学講座の活性化に大いに役立ちました。

昨年の医局年報巻頭言の最後に以下のように書きました。「90年代のバブル崩壊、昨年の金融危機は急激な発展は危うい事を示唆しています。これからの外科学講座運営においては、一過性の発展ではなく、長く継続可能で、健全な隆盛を目指したいと思います」。

外科学講座の再生ビジョンは確実に軌道に乗りつつあり、V字回復の第一歩を踏み出せたことは間違いありません。今後我々に求められているのは昨年までのペースや思考を漫然と継続することではなく、外科学講座再生ビジョンが第二段階に入ったことを認識しつつ、適切なシフトチェンジをすることだと思います。

医局員が少ないと日常診療や関連病院の運営などに大きな支障があるばかりでなく、医局員一人一人が疲弊し悪循環に陥ります。入局者が少ない上に大量の退局者が続出して数年前はひたすら入局者を増やすことに専念していて良かったと思いますが、3年連続二桁入局が続き、退局者も激減した現在、講座運営のシフトチェンジが求められています。

ご存知のように歯科開業医の30%が年収300万円以下のいわゆるワーキングプワです。昨今の開業ラッシュの結果、医科開業も急速に過当競争となり廃業に追い込まれる医院も散見されるようになりましたが、政府が診療報酬の改定などを通じて大病院・勤務医優遇を推進していますので開業医にとっては更に不利な環境が当分続くことが予想されます。こうした現状を踏まえますと、これから医師になる若者にとって新規開業するということは現実的な選択肢ではなくなって来るでしょう。従来は、医療のダイナミズムが最も体感できる外科希望者も開業することを念頭にマイナー診療科や内科系に流れていましたが、今後新規開業が困難と判断されれば、これまで施行してきた外科再生プランと相まっておのずと外科希望者は増えてきます。

今後「外科医局員の総幸福度アップ」のために必要なことは、無尽蔵に入局者を増やすことではありません。現在の医局員の就職先をきちんと確保することや、新たに入局してくれた多数の若者に充実したトレーニングを授けることがより優先順位の高いことだと考えています。いずれを達成するためにも、無責任に入局者を増やすことは慎まなくてはなりません。さらに前者を達成するためには、現在外科学講座が有している26に及ぶ関連病院を維持することに加えて、新たな派遣病院を獲得することが必要です。またこうすることでトレーニングの充実も図れます。外科医不足が深刻な中、他大学に先駆けて外科医獲得に成功した我が外科学講座にとって、今こそ新規派遣病院を獲得する千載一遇の好機です。今年から「新規派遣病院発掘チーム」を作り、この目標を何としても達成したいと思えます。なお、新入局者数に関してですが、現在の医局員数、派遣病院数と各病院における手術件数などを元にざっと試算しますと20名前後を上限とすべきではないかと考えています。現在、それ以上の応募が見込まれていますので、面接試験などで志が高くチームプレーのできる若者を選考すべきではないでしょうか。

皆さん、外科学講座再生ビジョンは間違いなく第二段階に入りました。外科学講座を正しい方向に導いていくためには、5年、10年先の医療環境を見据えたかじ取りが必要です。現状は勤務医不足であることは間違いありませんが、この状況は未来永劫続くものではありません。今後新規開業という選択が狭められれば遠くない将来、勤務医過剰という状況が訪れます。時代の先取りをしすぎてはなりません。先見の明は持っていなければなりません。従来から掲げている「医局員300人」「教授30人輩出」に加えて「派遣病院30」を再生ビジョンの新たな目標としたいと思います。2009年度は外科学講座再生ビジョンの第二段階の幕開けの年と位置付けております。

最後になりましたが医局員230名を代表し、多大なご支援を賜りました慈刀会の諸先輩に深謝いたします。